

令和5年度 大田区立梅田小学校 自己評価 報告書

令和6年3月8日

○ 本校の概要

○開校69周年 児童数978名(5月1日現在) ○学級数30学級 特別支援教室(4担任)拠点校 ○教職員数75名:校長1 副校長2 教員41名 養護教諭2 栄養士1 事務1 専門員1 都費講師6 事務補助2 副校長アシスタント1 学校講師1 学校特別補助員2 教員支援員1 読書学習司書1 学習補助員5 理科支援員2 登校支援員3 体育指導補助員2 (民託:用務員3 児童誘導員2 施設管理員3 給食5 ALT2)
 ○令和2~4年度 東京都教育委員会・大田区教育委員会における情報教育やICT教育の推進 ○研究財産をさらに持続的・日常的なものに発展させ、校内研究を充実化 令和5年度 校内研究主題「個別最適な学びと、協働的な学び」
 ○梅田の学び“うわあ～大発見!”“めざせ!○○マスター”“だれとでも伝え合おう!”の推進・自主学習ノートのすすめ ○学年朝会の実施 ○「語先後礼」の励行 ○全校朝会での校歌斉唱 ○校内での俳句表彰 ○学年別音楽朝会
 ○体育的活動「梅田ハッピータイム」 ○読解力向上一校一取組(低学年)科学的読み物の推進 (高学年)新聞を読み、まとめることを推進。 ○読書の記録の表彰

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄		
								評価	人数	コメント
プラン1 未来社会を創造的に生きる子供の育成	コミュニケーション能力、情報活用能力、ともに生きる力等、これからの社会の変化にシなやかに対応する子どもの力と自信を身に付けます。	外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々とのコミュニケーション能力の育成等を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	4	A 「授業で自分の考えを発表している。」と回答した児童の割合	4: 90%以上	■A 「授業で自分の考えを発表している。」と回答した児童の割合……80.4% ・児童アンケート(12月実施) ・課題に対して、自分なりの考えをもつことの大切さについて、児童は理解している。 ・校内研究のテーマは、児童の主体性を引き出す要因(ファクター)について設定し、研究を充実させてきた。 ・個の学びと協働的な学びを往還しながら、児童が確かな学力を身に付けていけるよう、引き続き授業改善を図っていく。 ■B 「タブレット端末を日常的に活用している。」と回答した児童の割合……83.2% ・令和2年度から継続させた校内研究(プログラミング、ICTの利活用、情報教育)の成果があり、タブレット端末利活用の日常化が図られている。 ・今後も、各教科等の授業を通じて、情報活用能力の育成を推進していく。	A	5	・自分の考えをもって主体的に発表することは大切だが、他の人の考えと異なる場合、コミュニケーションをとって学ぶことの重要性を指導してほしい。 ・タブレット端末の活用は、あくまでも補助として使うことを十分認識させることを徹底してほしい。ともすれば、活用することが目的となってしまっては困る。 ・タブレットを利用して、外国人から聞いて、聞く力を養ってほしい。 ・クロームブックを使い始めて(2020年)、1年生から6年生まで、現在は完全に使いこなせていることに感心する。 ・タブレット端末の学校外(家庭内)における利用状況(何を、どの程度)がよくわからない。持って帰って来ても、連絡の確認(宿題や持ち物等)で終わっているのか、低学年に関しては、「先生に言われてないから」という場合はないのだろうか。 ・タブレット端末の利用は、情報収集に適したものと思われるが二次元表示されたものと「本物」には差があることを、教える側が理解していることが必要と感じる。 ・タブレット端末の利用が、学校教育の中で日常的に行われることは必要かもしれないが、自分で書くこと、自分の考えをノートにまとめる作業は大切にしてほしい。 ・取組内容の5項にある、体力向上全体計画、一校一取組、一学級一実践の内容を知りたい。 ・AB共に80%を上回っていることは、指導が適切に行われているのうかがえる。 ・学校行事で代表児童が話をするときなど、極めて素敵な挨拶をされると感じることも多い。様々なことに主体性をもって取り組み、自分なりの考えをもって、思っていることをアウトプットできるように成長できていると感じる。 ・今後のコミュニティスクールの推進については、各学校の特色ある運営にしていくべきと思う。区教育委員会の統一的指導ではなく、各学校主体の制度推進にして、学校運営を行うようにしてほしいと思う。
		論理的、科学的な思考力の育成を目指し、「おたのものづくり」を生かした体験活動や理数授業等を実施する。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	3	B 学習する際、「タブレット端末を日常的に活用している。」と回答した児童の割合	3: 80%以上		B	6	
		学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。	4:80%以上の正規教員がChromebookに月に10日以上ログインし活用した。 3:70%以上の正規教員がChromebookに月に10日以上ログインし活用した。 2:60%以上の正規教員がChromebookに月に10日以上ログインし活用した。 1:60%未満であった。	4		2: 60%以上		C		
		他者の人権を尊重する人権教育の推進を目指し、人権教育資料等を活用した授業を実施する。	4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	4		1: 60%未満		D		
		体力テストの結果を踏まえ体力向上全体計画を作成し、計画に基づいた体育指導や「一校一取組」運動や「一学級一実践」運動を実践する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	3						
プラン2 学力の向上	児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。	4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	3	・「めあてに向かって学習し、学習内容が分かった。」と回答した児童の割合	4: 90%以上	■「めあてに向かって学習し、学習内容が分かった。」と回答した児童の割合……89.1% ・昨年度と同程度だが、「よくあてはまる」と回答した児童が、約2.5ポイント増加した。 ・めあてを設定することやそれに向かって学習することの大切さについて、児童はよく理解している。 ・学習場面に限らず、生活場面や行事等でも、めあて意識をもって活動できている児童が多い。 ・展覧会では、学校全体の「展覧会テーマ」→児童会の「展覧会スローガン」と落とし込んでいき、行事全体を貫いた目標意識へとさせることができた。	A	7	・学習面・生活面において目標を設定し、それに向かって努力し、結果をチェックし、一步一步前に進んでほしい。 ・目標を決めて、それに近づこう、各児童が頑張るよう導いてほしい。 ・特に展覧会での児童の自主性に驚かされた。積極的であった。 ・どのような場面で個別に面談し、それを保護者に周知しているのか。 ・ステップ学習チェックシートは、保護者にどういう形で周知しているのか。 ・1・2項目の取組評価が「3」であることが気になる。 ・残り約10%の児童の原因の確認やサポートが、今後できるとよいと思う。 ・90%近い児童が学習内容を理解しているのは、きめ細かい指導の結果だと思う。 ・児童と接する機会があるが、学校が楽しいと話すが多く、保護者の一人としては、先生方に感謝している。担任の先生方の授業を拝見することが多いが、授業で使用するアイテムを工夫されたり子ども達が理解しやすいように努力されたりしていると感じた。
		算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。	4:学期に2~3回知らせた。 3:学期毎に知らせた。 2:年度間に1回は知らせた。 1:お知らせできなかった。	3		3: 80%以上		B	3	
		学習補助員等による算数・数学・英語の補習を実施する。	4:対象児童・生徒への出席を全教員が働きかけた。 3:80%以上の教員が働きかけた。 2:60%以上の教員が働きかけた。 1:60%以下の教員が働きかけた。	4		2: 60%以上		C	1	
		授業改善推進プランを、授業に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	4		1: 60%未満		D		

プラン6 学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指します。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。	4: 月1回以上更新した。 3: 学期に2~3回更新した。 2: 学期1回以上更新した。 1: 更新しなかった。	4	・保護者アンケートによる学校評価における学校満足度の割合	4: 90%以上	■保護者アンケートによる学校評価における学校満足度の割合 ……96.3% ・肯定的な回答は、昨年度より微増。(昨年度は、95.2%) ・学校教育全体に対する総合的な視点でのアンケート項目「我が子は学校生活を楽しんでいる」の数値を学校満足度と解釈した。 ・アンケート回収率61.1% 昨年度から減少(昨年度は、66.0%) GoogleFormsによるアンケート回収について、さらに周知していく必要がある。 ・スクールサポートうめだの協力のもと、各事業が好評である。 →夏のわくわくスクール →図書館見守りボランティア →おそうじサポーター →図書館サポーター →ガーデンサポーター ・地域人材の活用として「梅田小和太鼓クラブ」を発足させ、11月から月に2回程度の練習を開始した。令和6年度の創立70周年記念へ向けて、地域との協働をさらに推進していく。	A	8	・児童には、地域の実施する各種行事に積極的に参加させ、また行事に対する企画立案から実施への手続きを学ばせる機会をもたせたい。 ・学校、家庭、地域が一つになって、健全な児童を育ててほしい。 ・スクールサポートうめだとの協同がうまくいっていると思う。 ・アンケートの回収率の中の満足度96.3%は、全体の約半数の家庭の満足度かと思うが、アンケートに回答のない残りの30数%(約三分の一)の家庭はどうかだろうか。そこが気になる。忙しいとか面倒だとか、いろいろな理由はあるかと思うが、回収率を上げる工夫も考慮すべきと思う。 ・コミュニティスクールを導入し、機能させることで、地域で学校教育をより密に見守れるようになればよいと思う。それが個々の家庭教育の向上に繋げるのが理想と感じる。 ・昔は、子どもの教育は母親の役目だった。少しずつ分担するようになってきた。両親で教育に関わっている家庭ほど、子どもがよく育っているように感じる。 ・親としては、子どもが学校生活を楽しんでいると感じるのはとても安心できることだと思う。これからも安心安全な学校をつくってほしい。地域の一人として、微力ながらお手伝いしたいと思う。 ・一保護者としては、非常に満足している。先生方には感謝しかない。ただ、不登校になる子どもがいるという話も伺っており、そういった児童をどのように拾い上げていくのかなど、地域やPTAも含めて考えてもよいのではと思う(具体的に何をどうすればよいかはわからないが、地域やPTAのイベントに参加してもらおう、積極的に誘いするなど)。
	地域教育連絡協議会において、児童・生徒の変容等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。	4: 毎回情報を提供した。 3: おおむね情報を提供した。 2: あまり情報を提供しなかった。 1: 情報を提供しなかった。	4		3: 80%以上		B		
	学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実践する。	4: 学期に2~3回行った。 3: 学期1回以上行った 2: 年1回以上行った。 1: 実施しなかった。	4		2: 60%以上		C		
					1: 60%未満		D		

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。
 ○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。
 ○学校関係者評価の「評価」は、A: 自己評価は適切である B: 自己評価はおおむね適切である C: 自己評価は適切ではない D: 評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載する。